

ティーチング・ポートフォリオ

筑波学院大学 経営情報学部 ビジネスデザイン学科
望月 義人

教育の責任 (2020 年度担当科目)

科目名	対象 学年	受講 人数*	授業 形態	必修 選択	科目区分 (カリキュラムにおける位置づけ)
ツーリズム論	2-4	45	講義	選択	専門基礎科目群 コース科目 (グローバルコミュニケーション・ビジネスマネ ジメント)
ニューツーリズム論	2-4	21	講義	選択	専門基礎科目群 コース科目 (グローバルコミュニケーション・ビジネスマネ ジメント)
観光産業論	2-4	30	講義	選択	専門基礎科目群 コース科目 (グローバルコミュニケーション・ビジネスマネ ジメント)

※受講人数は過去の実績による平均受講人数

教育の理念

教育に携わるにあたって以下の諸点を理念としている。

- ①「学びは生涯続く」
- ②「教育により教える側も教えられる側も双方が進化する」
- ③「1年前、4年前の自分と現在の自分を比較して、必ず進化していることを喜びとする」
- ④特に学生に対しては、「大学での学修を通じて資質と能力を磨き、卒業後には、その資質と能力を惜しみなく還元できるように」「社会へ出たら、使える人材になろう」の2点を呼び掛けている
- ⑤学長として教員には「それは学生の力になれる教育か、を常に自問自答しながら教育に当たること」を呼び掛けている

教育の方法

アクティブラーニングを常に心がけており、教員側からの一方通行的授業は行わないこと、を徹底している。授業の基軸となる教科書、資料を配布するが、それを理解させるだけの授業は一切行っていない。基軸に沿って授業を進めるが、その方法は、教員と学生の授業中のやり取り、学生のプレゼンテーションについての互いの意見交換を重視した内容にしている。

授業というと、パワーポイント（PP）映像を投影して説明するという手法が多く行われているが、PPはあくまで補助手段であって、この説明をもって授業の着地点としてはいけない。

学生が授業内容をどの程度理解しているかは、授業中の教員と学生とのやり取りを通じて把握されるものであり、決められた授業の教室は、教員と学生とのフォーラムの場である、という考えを基本的に授業展開することが最重要事項と思料する。

教育の成果 および 今後の目標

「授業改善計画報告書」を参照。

参考資料

なし